

世界のBIMガイドラインの検証報告

2011年6月9日

日本IAI ガイドラインTFリーダー
山本 賢司

1

発表内容

- ガイドラインTFの発足の経緯
- 活動内容
- BIMガイドラインとは
- 各国のBIMガイドラインのご紹介
 - National Guidelines for Digital Modeling(CRC:豪州)
 - BIM Guideline and Standard for Architects & Engineers (Wisconsin州管理本部施設局:米国)
 - BIM PROJECT EXECUTION PLANNING GUIDE (ペンシルバニア州立大学:米国)
 - その他の国のBIMガイドライン
 - 建築分野BIM適用ガイド(国土海洋部:韓国)
 - GSA BIM Guide Series(GSA:米国)
 - IPD_workflow_for_BIM(Vectorworks:米国)
 - Appendix 5 Digital 3Dmodel and BIM requirements(STATSBYGG:ノルウェー)
 - 3D_Working_Method 2006 etc(bips:デンマーク)
 - BIM Project Execution Planning Guide(英国空調学会:米国)
 - BIM Requirements 2007(Senate Properties:フィンランド)
- 各国のBIMガイドライン特性比較
- 日本が目指すBIMガイドライン
- 今後の活動

2

ガイドラインTF発足の経緯

BIMによる建設プロセス変革の動きは世界中で広まってきており、BIM先進国の公共発注者は、BIM使用を義務付ける案件を増やしつつある

当然、それらの国では

- どの様にモデル化を行うか
- 何をモデル化し、何をモデル化しなくて良いか
- どの様なデータ形式で納品するか
- 等々

ガイドラインが策定されている

そのような状況のもと日本版BIM・IFCガイドラインの必要性を痛感し、ガイドライン検討・作成に必要な情報を入手すべく、2010年7月、にIAI日本メンバーを主体にガイドラインTFを発足させた

3

活動内容

《活動期間》 2010年7月 ~ 2011年5月
(今期も継続)

《活動メンバー》 IAI日本会員メンバー主体

《活動内容》

- ・主要各国のBIMガイドラインの翻訳、分析
- ・BIMガイドラインの傾向分析

4

BIMガイドラインとは

- BIMガイドライン
 - BIMモデルをどのように位置づけ、どのように構築、連携して運用するかなどの考え方をまとめたもの
 - 設計者や施工者が違っても、統一のとれたモデルを作成するためのもの
- BIMガイドラインの必要性
 - BIMによる建設生産プロセスを確立するためには、基本的なルール(BIMによる業務プロセス、技術標準、モデル化の方法、責任と権限・・・など)を決めなければならない
 - モデルを設計・生産・管理のプロセス間で共有し、下流工程で使えるようにするためにはモデル化すべきオブジェクトを示してやらねばならない
 - 発注仕様に近いガイドラインでは納品すべきモデルをどの様に作るか示さねばならない
 - ガイドラインはプロジェクトの性格や発注者の要求によって異なる可能性があるが、プロジェクト毎に初めから作るのは非効率なのでテンプレートを作ってやる必要がある

5

各国のBIMガイドラインのご紹介

National Guidelines for Digital Modeling
(CRC 共同研究センター:豪州)

特徴:

- 建設イノベーションに向けた産学官連携の取組として注目されている豪州の共同研究センター (Cooperative Research Centers)
- 実務に必要なプロセス変化について概説する「BIMへのマネージャー・ガイド」
- 業務の業界標準を統一することでの第一歩を目指す



6